

企画展示

「外交史料館に聞いてみよう！」「外交史料Q&A展」について

外交史料館には、外交史料に関するご質問が国内外から数多く寄せられている。その対象時期は幕末期から現在におよび、内容も政治・外交、経済、文化交流など、多岐にわたる。

当館では平成一五年以降、これらのご質問の中から、多くの方々が関心を有すると思われるものを選び、回答とともに「外交史料Q&A」としてまとめ、ホームページに掲載してきた。

本企画展示では、過去一〇年間の「外交史料Q&A」から一二問を選び、関連史料を展示して、日本外交における様々な興味深い出来事を紹介した。本展示により、外交史料館の活動の一端をお伝えし、今



後一層外交史料館をご利用いただくための参考となれば幸いです。ある（開催期間…平成二四年一月五日～平成二五年七月一七日）。

本企画展示の展示

史料解説は以下の通り。なお、展示史料の一部は外交史料館ホームページ内のコンテンツ「特別展示・企画展示アーカイブス」にも掲載されている。

○外交史料館HP「特別展示・企画展示アーカイブス」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/archive.html>

○外交史料館HP「外交史料館に聞いてみよう！」「外交史料Q&A」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/qa/index.html>

「外交史料館に聞いてみよう！」「外交史料Q&A展」
〈展示史料解説〉

外交史料館には、外交史料に関するご質問が国内外から数多く寄せられます。その対象時期は幕末期から現在におよび、内容も政治・外交、経済、文化交流など、多岐にわたります。

当館では平成一五年以降、これらのご質問の中から、多くの方々が関心を有すると思われるものを選び、回答とともに「外交史料Q&A」としてまとめ、ホームページに掲載してきました。

今回の企画展示では、過去一〇年間の「外交史料Q&A」から一二問を選び、関連史料を展示して、日本外交における様々な興味深い出来事をご紹介します。この展示を通じて、日本外交への関心を深め、新たな発見をして、外交史料の楽しさに触れてみて下さい。また、あわせて外交史料館の活動の一端をお伝えし、今後一層外交史料館をご利用いただくための参考となれば幸いです。

Q1 日本国内に米国の領事館が最初に開設された年月日と場所を教えてください。

Answer

一八五六年九月三日(安政三年八月五日)、初代総領事ハリス(Townsend Harris)が、静岡下田の玉泉寺に仮の領事館を開設したのが最初です。

日米和親条約附録(一八五四年六月一八日調印)において、玉泉寺境内に米国人の埋葬所を設けること、および同地の了仙寺とともに休息所とすることが規定されました。また玉泉寺は、日魯通好条約の締結(一八五五年二月七日)のため来日したプチャーチン(E. V. Puttalin)が乗船していたディアナ号が天津波の影響で沈没した際に、乗員達が滞在した寺としても知られています。

玉泉寺は、一八五九年七月(安政六年六月)、弁理公使に昇格したハリスが麻布山の善福寺(現在の東京都港区元麻布)を公使館とするまで、領事館としての役割を果たしました。初代米国公使館として使

用された善福寺に関しては、外務省が一八七一(明治四)年から約一〇年かけて編纂した幕末外交史料集『続通信全覽』に関連記録が残されています。

【展示史料1-1】 一八六一年(万延元年十二月)

麻布・善福寺境内絵図

善福寺を公使館として使用するにあたって、防備のため、公使の部屋の庭先に柵や板塀が建てられ、見張りが置かれました。

本史料は、防備不足の箇所を柵を追加するための願書に添付された絵図です。朱書部分が追加箇所です。

【展示史料1-2】 一八六三年(文久三年九月)

麻布・善福寺間取り図

一八六三年五月(文久三年四月)に公使館として使用されていた建物が火災で焼失したため、以後、本堂を間仕切りし、公使の仮住居としました。

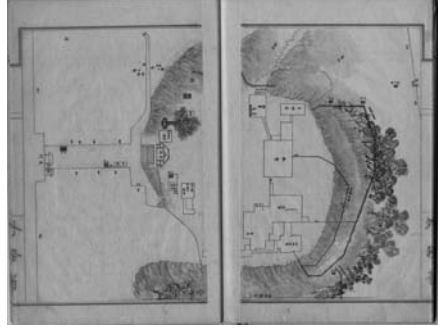
本史料は、法会を執行するために、寺側が公使部屋等の使用許可を求め、提出した文書の付属絵図です。青色の部分は公使等が使用していた部屋です。

Q2 一八八一（明治一四）年にハワイ国王が来日した時の記録はありますか。

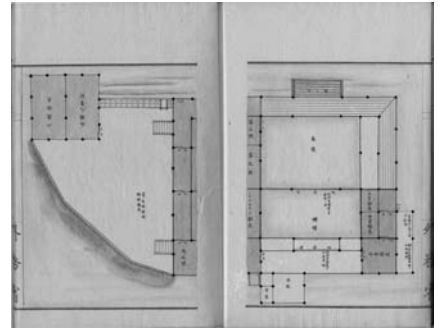
Answer

外務省記録「外国貴賓ノ来朝関係雑件 布哇、埃及、韓国、「アフガニスタン」之部」（布哇ハハワイ、埃及ハエジプト）に、第七代ハワイ国王カラカウア（David Kalakaua）が訪日した際の関連記録が残されています。また、主要な関係文書が、『日本外交文書』第一四卷（明治一四年）に採録されています。

一八八一年三月、カラカウア国王は世界各国巡遊の途次日本を訪問し、東京や横浜のほか、神戸、京都、長崎などを訪れました。明治政府は当初、国王は身分を隠しての訪問であるとの報告を受けていま



【展示史料1-1】



【展示史料1-2】

たが、明治政府にとつて初めて迎える現職の外国元首であったため、数度にわたる明治天皇との会談を設け、さらには菊花大綬章を贈呈するなど丁寧に接遇しました。

外交史料館には、カラカウア国王の来日に至る経緯を示す文書や、滞在中の活動を記した記録、ハワイ王国から明治政府への謝意を伝える書簡や日本の関係者へ勲章が贈られたことを示す文書などが残されています。

【展示史料2-1】 一八八一年（明治一四年）

布哇皇帝来航日記

ハワイのカラカウア国王が来日する直前から日本を去るまでの動静を記した文書です。国王の日本滞在は三月四日～二二日でした。

展示箇所は三月一五日にカラカウア国王が明治天皇と会談し、カメハメハ勲章を贈呈すると述べた部分です。

【展示史料2-2】 一八八一年（明治一四年） 四月三日

カラカウア国王の滞日所感に関する在天津日本領事館の報告書

日本を離れた後、清国を訪問したカラカウア国王に、在天津日本領事館の書記生が謁見した際の記録です。カラカウア国王は、日本での厚遇を感謝するとともに、日本の急速な発展に驚き、ぜひまた訪問したいと述べました。

Q3 日本の「大使館」が最初に設置されたのは、いつ、どの国ですか。

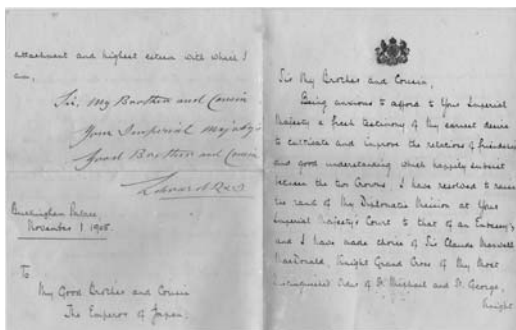
Answer

一九〇五(明治三八)年二月二日に在英國公使館が昇格して大使館となったのが最初で、初代大使に任命されたのは林董はやしたなむすです。

一八九〇年代、日本政府内部では、各国に置いてある公使館を大使館に昇格すべきだとの意見がしばしば示されました。このような意見は、日本の要望を列国が受け入れるかが不透明であり先送りされましたが、北清事変(一九〇〇年)、日露戦争(一九〇四〜一九〇五年)を経て、日本の国力が徐々に各国に認められるようになり、日露講和会議の直後には、英米両国より、日本と大使を交換する準備があるとの意向が伝えられました。日本政府はこの提案に応じて、まず英国との間で大使交換が実現し、在英國公使館が「大使館」に昇格しました。林董が在英國大使となった直後の一九〇六年一月には、米・独・仏三国でも公使館が大使館に昇格し、青木周蔵あおきしゅうぞう(米国)、井上勝之助いのうえかつのすけ(独国)、栗野慎一郎くりのしんいちろう(仏国)がそれぞれ大使に任ぜられています。こうした大使館設置にいたる経緯については、外務省記録「欧米大国外特命全権大使交換一件」に関連史料が残されています。また、外務省編『外務省の百年』にも、大使館設置について詳しく記されています。

展示史料3-1

一九〇五(明治三八)年二月二日



【展示史料3-1】



【展示史料3-2】

在本邦英國大使信任状(英國国王エドワード七世親書)

英國国王から明治天皇宛に送られた在本邦英國大使任命の信任状です。友好と理解を深めるために、日本における外交使節の序列を大使館に昇格させ、クロード・マクドナルド(Claude M. MacDonald)公使を特命全権大使に任命することが記されています。

展示史料3-2

一九〇五(明治三八)年二月二日

林董を特命全権大使に任じた辞令書

在英国日本公使館の大使館昇格に伴い、在英國林董公使に交付された辞令書です。

Q4 明治末期、当時の東京市からワシントンに桜が寄贈されたそうですが、その経緯を示す記録はありますか。

Answer

明治期の桜の寄贈に関する記録は、外務省記録「帝国及諸外国人間物品贈答雑件」に収録されています。

一九〇九（明治四二）年の春、タフト大統領夫人（Helen H. Taft）をはじめとする米国の婦人グループは、ワシントンを流れるポトマック川のほとりに公園を整備するにあたり、日本から桜を買い入れて植樹する計画を立てました。これを伝え聞いた在ニューヨーク水野幸吉総領事や在米国高平小五郎大使は、植樹される桜を日本から寄贈すれば、長らく日米友好の記念になると考え、日本の首都である東京の名義で桜を寄贈することを、外務本省に意見具申しました。

外務省からの照会に対し、尾崎行雄東京市長が快く同意したため、一九〇九年十一月、東京市で選り抜かれた二〇〇〇本の苗木が、横浜から出発しました（翌年一月米国情）。ところが、到着した苗木を米農務省の専門家が検分したところ、害虫が多種発生しており、消毒も植樹も不可能と判断されたため、やむを得ず全ての苗木が焼却処分されました。

この結果は、大統領夫妻をはじめとする米国関係者を落胆させました。そこで、外務省は再度東京市に桜の寄贈を依頼し、同市もこれに応じました。そして、一九一二年二月、改めて三〇〇〇本の苗木が東

京からワシントンに輸送されました。今度は全ての桜が無事に現地に届けられ、大統領夫人からは東京市に感謝状が贈られました。また、これと同時にニューヨークにも桜が贈られ、ハドソン河畔の広場で贈呈式が行われたとの記録も残っています。

この桜の寄贈をきっかけに、ワシントンなどで定期的に桜祭りが開催されるようになり、現在に至るまで日米交流に一役買っています。二〇一二年は、日本が桜を米国に寄贈・植樹してから一〇〇周年であることを記念して、「日米桜寄贈一〇〇周年」事業が実施されています。

展示史料4-1 一九〇九（明治四二）年六月二日

ワシントンへの桜寄贈に関する意見具申

在ニューヨーク水野幸吉総領事から小村寿太郎外務大臣宛の公信です。タフト大統領夫人がワシントン市ポトマック河畔の公園整備計画に尽力していることを聞いた水野総領事は、東京市から桜を寄贈することを外務本省に意見具申しました。

展示史料4-2 一九〇九（明治四二）年八月二十六日

東京市による桜二〇〇〇本の寄贈決定

尾崎行雄東京市長から石井菊次郎外務次官宛の文書です。東京市からワシントン市へ桜の苗木二〇〇〇本を寄贈することが決定されました。

【展示史料4-3】 一九一〇(明治四三)年一月三十一日

害虫発生による苗木の焼却処分に関する報告

在米国内田康哉うちだやすや大使から小村外務大臣宛の公信です。東京市から寄贈した桜の苗木に害虫が発生し、消毒も植樹も不可能と米國農務省の専門家が判断したため、苗木は焼却処分となりました。内田大使は再度の桜寄贈を検討するよう要請しました。

【展示史料4-4】 一九二二(明治四五)年六月二二日

桜寄贈事業の無事終了を伝える書簡

尾崎市長から内田外務大臣宛の書簡です。一九二二年二月に東京市から三〇〇本の桜の苗木を再度寄贈し、東京市による桜寄贈事業は「満足ナル終結ヲ見」たと記されています。

【展示史料4-5】 一九二二(明治四五)年三月二六日

タフト大統領夫人からの感謝状

展示史料4-4に添付された文書です。タフト大統領夫人が尾崎市長の夫人に宛てた感謝状の写です。



【現在のワシントン・ボトマック河畔の桜】

Q5 一九二二(明治四五)年に沈没した客船「タイタニック号」には日本人が乗っていたそうですが、そのことを裏づける記録はありますか。

Answer

外務省記録「慰問関係雑件」には、タイタニック号事件への日本政府の対応を示す記録があり、その中に、タイタニック号に乗船していた唯一の日本人についての記述があります。

英国ホワイト・スター・ライン社の客船タイタニック号は大西洋上で冰山に衝突し、一九二二年四月一五日未明に沈没しました。在英国日本大使館の小池張造臨時代理大使は各国の外交代表が英国政府に同情の意を表していることを東京に報告し、これを受けて日本政府も、英国政府に深厚なる同情を表すよう小池臨時代理大使に命じました(翌二八日に実行)。

一方、日本大使館から船会社へ日本人乗船者の存否について照会したところ、ロシア留学よりの帰国途中であった細野正文ほそのまこと鉄道院副参事が救助され、ニューヨークに搬送中であることが判明しました。細野副参事は、同年六月に無事帰国しました。

【展示史料5-1】 一九二二(明治四五)年四月一九日

タイタニック号乗船の日本人の安否情報

在英国小池張造臨時代理大使から内田康哉外務大臣宛の電報です。

日本人乗客は鉄道院副参事一名のみであり、救助されてニューヨークに向かっていることが記されています。

展示史料5-2 一九二二(明治四五)年四月二〇日

在本邦マクドナルド英国大使より内田外務大臣宛の礼状

タイタニック号遭難事件に対する日本政府からの弔意表明に対し、英国政府はマクドナルド大使を通じて謝意を伝えました。

Q6 ロシア革命に伴う内戦の中で、シベリアに在留していたポーランド孤児を日本政府が救済したことについて調べています。

Answer

関係史料として、外務省記録「変災及救済関係雑件 波蘭孤児救済方ノ件」があります(波蘭⇨ポーランド)。

一九一七(大正六)年のロシア革命当時のシベリアには、政治犯として流刑になったポーランド人の子孫など、多くのポーランド系住民がいました。彼らはこの革命に伴う内戦の際、祖国の独立を目指して戦いましたが、多数の犠牲者を出し、その子供達の多くは孤児となって極寒のシベリアを流浪することとなりました。加えて、一九一八年一月に独立を得たポーランドが、間もなくソビエト政府と戦争を開始したことが、これら孤児の救済を更に困難にしました。

一九二〇年六月、ポーランド児童救済会のビルケウイチ(Anna

Bielkewitch)会長が、日本の外務省を訪れて上記のようなポーランド孤児の惨状を訴え、援助を求めました。外務省は直ちにこの救済事業を日本赤十字社に打診し、同社の快諾を得ました。そして、申し出のあった翌月には、シベリア出兵中の日本軍によって第一次救済活動が開始されました。第一次救済活動では孤児三七五名が、一九二二年の第二次救済活動では三九〇名がシベリアより移送され、日本で手厚く看護された後、ポーランドへと送り届けられました。

展示史料6-1 一九二〇(大正九)年六月一九日

ポーランド孤児救援要請

ポーランド児童救済会のビルケウイチ会長から提出された救援要請書です。シベリアのポーランド孤児を米国のポーランド人居留地へ輸送するに際し、日本を通過する孤児達を一時保護してほしいと日本政府に要請しました。この文書では「児童ヲ愛シ可憐ナル花ノ如ク児童ヲ撫育スル美シキ国日本国」が「罪ナキ児童等ニ対シ其ノ援助ト救護ヲ与ヘラルベキコトヲ信ジテ疑ハザルモノナリ」としめくくっています。

展示史料6-2 一九二〇(大正九)年七月五日

日本赤十字社によるポーランド孤児救援承諾

日本赤十字社石黒忠恵社長(いぐろあきのり)から内田康哉外務大臣宛の文書です。日本赤十字社では、国交上、人道上重要な事件として、ポーランド孤

児の救援を承諾しました。

展示史料6-3 一九二二(大正一一)年八月三日

ポーランド孤児送還に関する訓令

内田外務大臣から在英国外務大臣林権助大使宛の公信です。孤児達はウラジオストクから敦賀の港へ移送され日本の土を踏みました。一九二〇年の第一次救済活動では横浜から米国経由でポーランドへ送還されましたが、一九二二年の第二次救済活動では、敦賀から大阪の収容所に運ばれて看護を受けた後、神戸からインド洋、スエズ運河を経てロンドンへ送られました。

本公信は、ロンドンに到着した孤児達をダンチツヒ(現在のグダニスク)まで無事とどけるため関係筋と協力して対応するよう命令したものです。

Q7 カナダのブリティッシュ・コロンビア大学に新渡戸記念庭園(新渡戸ガーデン)が造られた経緯を記した文書はありますか。

Answer

「太平洋の架け橋になりたい」という言葉で有名な新渡戸稲造(一八六二〜一九三三)は、その言葉通り、国際親善のために尽くし、一九三三(昭和八)年、カナダで開催された太平洋問題調査会の会議に出席した直後に病に倒れ、現地でその生涯を閉じました。

在留邦人とバンクーバー日本協会は偉大な国際人の終焉の地に記念物を残したいと考え、一九三五年八月、新渡戸の功績を記念する石燈籠とそれを中心とする日本庭園をブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)構内に造園し、同大学に寄贈しました。庭園は、周囲との調和を考え、純粋な日本式ではなく、日加両国の樹木からなる折衷様式で造られました(加奈陀IIカナダ)。

バンクーバーの石井康領事は、寄贈式典でのスピーチで、新渡戸の輝かしい業績を象徴するものとして石燈籠を寄贈したことを述べ、この庭園によって日加の親善理解が一層深まることを希望しました。

新渡戸が亡くなった状況や、庭園が造られた当時の様子を示す記録は外務省記録「本邦人弔喪関係雑件」に残されています。

その後、一九五八年にUBCによる日加文化交流が企画され、翌年、新渡戸ガーデンは拡張・改築されました。庭園が拡張・改築された際の関連記録は第一四回外交記録公開で公開された外務省記録「本邦諸外国文化交流関係雑件」に綴られています。

新渡戸ガーデンは現在もUBC構内にあり、二〇〇九年には、天皇皇后両陛下が訪れるなど、日加親善の場となっています。

展示史料7 一九三五(昭和一〇)年一〇月四日

新渡戸稲造記念事業に関する報告

在バンクーバー石井康領事から広田弘毅外務大臣宛の公信です。新渡戸稲造の逝去後、ブリティッシュ・コロンビア大学に石燈籠を寄

贈することになった経緯と寄贈式典の様子が報告されています。式典には約三〇〇名の列席者があり、挨拶に立った石井領事は、学生に新渡戸の功績を伝え、大学が「太平洋の橋の一端」となることを希望する旨を述べました。



【新渡戸稲造】



【庭園内を散策する式典参加者】

Q8 ヘレン・ケラーに関する記録はありますか。

Answer

三重のハンデキャップを克服したことで世界的に著名な米国人女性ヘレン・ケラー (Helen Adams Keller: 一八八〇～一九六八) は、世界各地で講演活動を行いました。日本にも一九三七(昭和一二)年四月にやって来ました。この訪日に関する文書が、外務省記録「各国名士ノ本邦訪問関係雑件 米国人ノ部」にあります。また訪日時、彼

女に秋田犬が贈られましたが、この犬は翌年事故で死んでしまいました。ヘレン・ケラーが愛犬の死に落胆していることを知った日本側は、死亡した犬の兄弟犬をあらためて贈りました。この関係文書が、外務省記録「邦人各人問贈答関係雑件」にあります。なお、ヘレン・ケラーは戦後にも来日しており、一九四八年九月に名古屋で講演会を開催したことが、外務省記録「連絡調整地方事務局執務報告書綴 東海北陸一」からわかります。

【展示史料8-1】 一九三七(昭和一二)年三月八日

ヘレン・ケラー来日につき協力依頼

ヘレン・ケラー女史歓迎委員会の徳川家達委員長から外務省の天羽英二情報部長宛の文書で、日米親善のため、歓迎委員会の委員となつて協力しよう天羽部長に要請したものです。ヘレン・ケラーの東京滞在日程が添えられています。

【展示史料8-2】 一九三八(昭和二三)年二月六日

ヘレン・ケラーに寄贈する秋田犬の斡旋依頼

岸倉松外務大臣秘書官から佐々木芳遠秋田県知事宛の文書です。来日時に贈られた秋田犬(神風号)が事故死し、落胆するヘレン・ケラーを慰めるために、同系の犬を入手できるように斡旋を依頼したものです。

Q9 一九四〇(昭和一五)年に東京でオリンピックを開催する予定があったと聞きましたが、本当ですか。

Answer

本当です。

一九三一年一〇月、東京市議会は皇紀二六〇〇年に当たる一九四〇年のオリンピックを東京に招致したいと満場一致で決議しました(皇紀とは、神武天皇が即位したとされる西暦紀元前六六〇年を元年として数えたものです)。東京市からの要請を受けた外務省は、関係方面への協力要請や情報収集に努めました。特にI O C (国際オリンピック委員会) 委員も務めていた在伊国杉村陽太郎大使は、一九三五年二月八日にムッソリーニ (Benito Mussolini) 伊国首相と会談し、有力な開催候補地であったローマを辞退させ、逆に東京への支持を取り付けました。こうした諸方面の努力が実を結び、一九三六年七月三日、ベルリンで開催されたI O C会議において対立候補であったヘルシンキを破り、第一二回オリンピックの東京開催が決定しました。開催決定後、国内では大会組織委員会を設置するなど準備が進められました。しかし、一九三七年七月の盧溝橋事件勃発以降、日本に対する国際的な批判の高まりを背景として、東京開催に反対する動きが各国で強まりました。また、国内からも、現在は物心両面で国の総力を挙げて戦局に対処すべきであるとして、開催に反対する声が高まりました。こうした国内外からの反対を受けて、一九三八年七月一日、日本政府は

東京での開催を取り止めるのが適当であると大会組織委員会に通達し、翌一六日に大会組織委員会は、東京大会開催返上を発表しました。

この「幻の東京オリンピック」に関する記録は、外務省記録「国際「オリムピック」競技大会一件 本邦大会関係」等に収められています。

展示史料9-1 一九三二(昭和七)年六月一日

オリンピック招致活動協力依頼

永田秀次郎東京市長から斎藤実さいとうまこと外務大臣宛の文書です。一九四〇年開催の第一二回オリンピックを東京に招致できるよう外務省に協力を依頼しました。

展示史料9-2 一九三五(昭和一〇)年二月八日

杉村大使とムッソリーニ首相の会見に関する報告

在伊国杉村陽太郎大使から広田弘毅外務大臣宛の電報です。当時、東京だけでなく、ローマもオリンピック開催地に立候補していました。杉村大使はムッソリーニと会見し、ムッソリーニから一九四〇年の開催地を東京に譲るといふ言明を引き出しました。

展示史料9-3 一九三八(昭和一三)年四月五日

I O C会長からのオリンピック開催辞退の勧奨

在ベルギー来栖三郎大使から広田外務大臣宛の電報です。来栖大使を訪問したI O C会長は、戦争中の日本でオリンピックを開催する

ことに反対の意見が多く、ボイコット国が多数出ること懸念されるため、日本の面目のためにもオリンピック開催を辞退するよう勧めました。

展示史料9-4 一九三八（昭和一三）年七月一六日

オリンピックの開催を中止する旨の大会組織委員会声明書

日本政府からの中止勧告を受けた
大会組織委員会が発出した声明書で
す。オリンピック史上初となるアジアでの大会開催の機会を失うことは遺憾ではあるが、時局に鑑み、「国策二順応シ報国ノ誠ヲ致ス」ために開催を中止すると結んでいます。



【幻の公認マーク】

Q10 赴任国の米国で死去した、齋藤博大使について教えてください。

Answer

一九一〇（明治四三）年外務省に入省した齋藤博（一八八六―一九三九）は、ワシントン、パリ、ニューヨーク、オランダ在勤などを経て、一九三三（昭和八）年、若くして在米国大使に任ぜられました。着任した齋藤は、米国の外務当局や財界と折衝を繰り返したほか、日本の外交政策や日米関係の歴史を解説した著書「Japan's Policies and Purposes」

の執筆や、米国各地での外交、経済問題に関する講演活動などを通じて、急速に悪化する米国内の対日感情緩和に努めました。また、一九三七年一月に日本海軍が揚子江に停泊中の米艦パネー号を沈没させる事件が起こると、その直後に全米ラジオ放送を通じて円満解決を訴え、事態の沈静化に努めました。しかし、齋藤はこうした激務から体調を崩し、一九三八年一月には新任の堀内謙介大使と交代しましたが、帰国できないまま、一九三九年二月にワシントンで亡くなりました。彼の死後、ハル（Cordell Hull）米國務長官が「（齋藤大使は）理解ト同情ヲ以テ日米友好関係ノ為ニ尽力シタ」とのステートメントを新聞に寄せるなど、その死を惜しむ声が米国内で広まりました。米国政府はさらに、最新鋭の巡洋艦「アストリア号」で齋藤大使の遺骨を護送するという異例の措置をとって、彼の死に特別の弔意を示しました。

米国がアストリア号で遺骨を護送した経緯のほか、彼の葬儀が外務省葬として実施されたことについては、外務省記録「本邦人弔喪関係雑件 齋藤大使葬儀関係」に関連記録が収められています。

展示史料10-1 一九三九（昭和一四）年二月二七日

齋藤大使の死去に対する米国での報道振り

在米国堀内大使から有田八郎外務大臣宛の電報です。故齋藤博大使が米国で敬愛され、ハル國務長官をはじめ多くの人々がその死を悼んでいることがうかがわれます。

【展示史料10-2】 一九三九(昭和一四)年三月一日
米国の軍艦による斎藤大使の遺骨移送の決定

在米国堀内大使から有田外務大臣宛の電報です。ウエルズ国務次官は堀内大使を招致し、故斎藤大使の遺骨を軍艦によって日本まで送り届ける計画を告げました。

元来、米国の慣例では、このような待遇は現任大使が死去した場合に示されるもので、病氣療養中とはいえ、離任した大使への取り計いとしては異例の厚遇でした。斎藤大使の遺骨を載せた巡洋艦アストリア号は、三月一八日にアナポリスを出発し、ホノルル経由で四月一七日に横浜へ入港しました。



【斎藤博】



【巡洋艦 アストリア号】

Q11 太平洋戦争勃発直前に行われた日米交渉の際、「マリ子」という合言葉が使われたのは本当ですか。

Answer

本当です。外務省記録「日・米外交関係雑纂 太平洋ノ平和並東亜問題ニ関スル日米交渉関係」に、そのことを示す史料が残されています。

一九四一(昭和一六)年秋、日米間では戦争を回避するための最後の外交交渉が続けられていました。その際、盗聴を警戒した日本側では、国際電話で合言葉を使用しました。例えば、寺崎太郎てらさき たろう局長と在米国若杉要公使との電話では「マリ子」は「駐兵問題ニ関スル米側態度」を示す合言葉として用いられました。その他にも、当時ワシントンの大使館と東京の外務本省との間では、「伊藤君」(「総理」)、「伊達君」(「外務大臣」)、「徳川君」(「陸軍」)、「縁談」(「日米交渉」)、「君子サン」(「大統領」)、「子供カ生レル」(「形勢急転スル」)、「ソノ後ノ公使ノ健康」(「交渉ノ一般的見透」といった合言葉が使用されていたと史料に示されています。

なお、「マリ子」とは、当時在米大使館の一等書記官で、寺崎アメリカ局長の弟である寺崎英成てらさき ひでなりの長女の名前に由来したものです。

【展示史料11-1】 一九四一(昭和一六)年一〇月一三日
日米交渉時の電話連絡に使用された合言葉



【寺崎英成】



【日米交渉の記録ファイル】

とよだていじろう
豊田貞次郎外務大臣から在米国野村吉三郎大使宛の電報です。寺崎太郎アメリカ局長と若杉要公使との電話で使用する合言葉を事前に伝えました。例えば「マリ子が遊びに来ない」と言えば、それは「日本軍の駐兵問題に関する米国の態度はリーズナブルではない」ことを意味するとされました。

【展示史料11-2】 一九四一（昭和一六）年二月二十六日

日米交渉時の電話連絡に使用された合言葉

とうごうしげのり
東郷茂徳外務大臣から在米国野村大使宛の電報です。

日本側は米国時間一月七日に日本側最終案「甲案」を、一月二〇日には「乙案」を提示し交渉に臨みました。しかし、本電報が到着した直後の現地時間一月二六日夕刻、野村大使はハル國務長官との会見において「ハル・ノート」を手交され、交渉は決裂へと向いました。

よしだしげら
Q12 吉田茂の側近として知られる白洲次郎が憲法改正にかかわったことを示す史料はありますか。

Answer

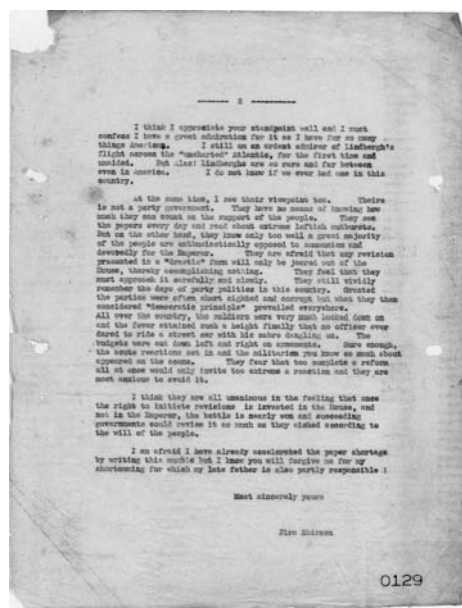
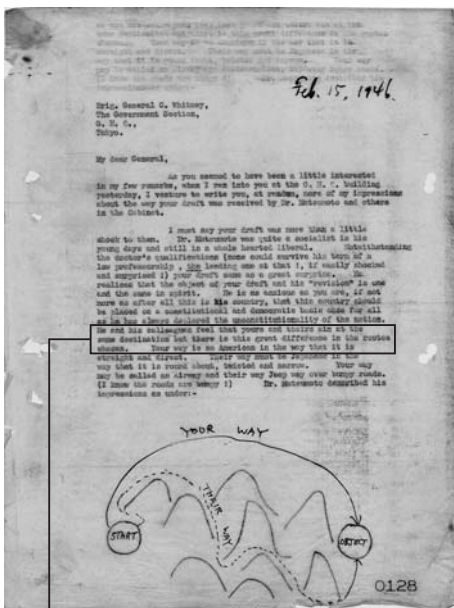
白洲次郎（一九〇二～一九八五）は、ケンブリッジ大学卒業後、日本食品工業及び日本水産の取締役としてロンドンに駐在し、その間、在英大使（在任期間…一九三六～三八）であった吉田茂と親交を深めました。そして終戦後の一九四五（昭和二〇）年二月、吉田外務大臣の要請で終戦連絡中央事務局参与に就任し（四六年三月次長、四七年五月退任）、その後経済安定本部次長や貿易庁長官を歴任するなど、占領期におけるGHQとの折衝にあたって、吉田の側近として重要な役割を果たしました。

白洲は憲法改正作業にも深くかかわりました。第一回外交記録公開で公開された外務省記録「帝国憲法改正一件」には、一九四六年二月一三日のGHQによる憲法草案の提示から、修正作業を経て日本国憲法草案が閣議で承認されるまでの動きを記した「白洲手記」（一九四六年三月七日付）や、民主的な憲法の制定という目的を同じくしながらもその達成に至る道筋が日米間で異なっており、日本側の構想は国情に沿った道筋である旨を図を使って指摘したホイットニー（Courtney Whitney）GHQ民政局長宛書簡の写（「ジープ・ウェイ・レター」、一九四六年二月一五日付）などが含まれています。

【展示史料12】 一九四六(昭和二一)年二月一五日

白洲次郎からホイットニー民政局長宛の書簡(「ジープ・ウェイ・レター」)

二月一三日、GHQからの憲法草案(「マッカーサー草案」)が日本側に提示されると、憲法改正問題を担当していた松本 丞治(まつもと じょうじ) 国務大臣らは衝撃を受けました。そこで白洲はホイットニーに手紙を書き、米側がとる道筋が目的(「民主化」)に向かって一直線に進む航空路(Airway)であるとすれば、日本側のは曲がりくねった狭い道(ほろ道 (Jeepway)) のようだと言明し、ただし、選ぶ道が大きく違っても、両者の目指すべき目的は同一であることを日本側関係者も感じていると伝えました。図中の「Your way」は米国の道筋、「Their way」は松本たちの考える日本の道筋を示しています。結局、再考を求めめる日本側の要望は受け入れられず、「マッカーサー草案」に沿った新しい憲法草案を起草することとなりました。



【展示史料12】

He and his colleagues feel that yours and theirs aim at the same destination but there is this great difference in the routes chosen... ※He = 松本丞治